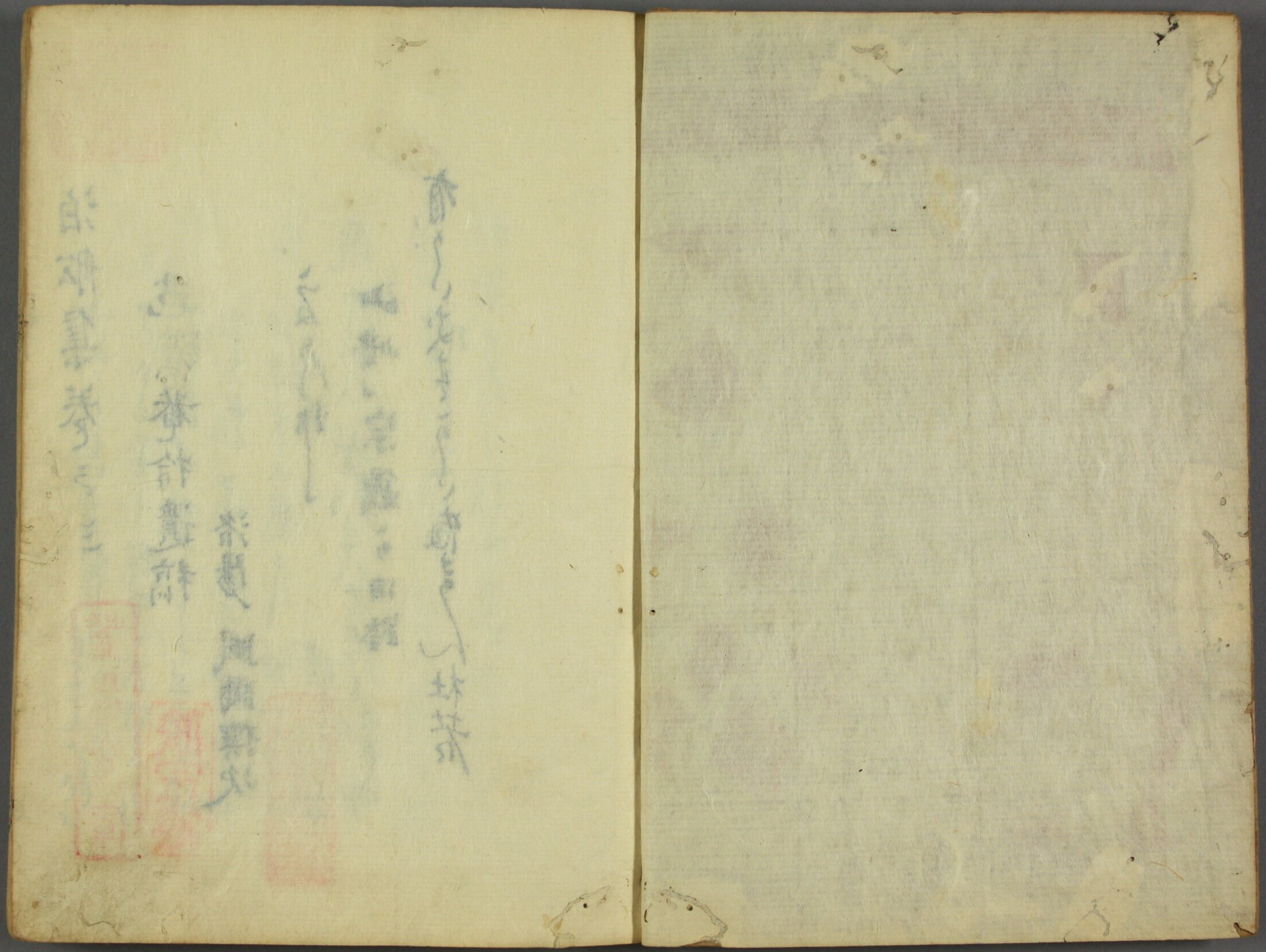
海航集 中

中村俊定文庫
文庫 18
139
2



宮城県図書館蔵

泊船集巻之三

芭蕉庵拾遺稿

洛陽　風國撰次

宮城県図書館蔵

宮城県図書館蔵

夏乃部

山崎宗鑑この旧跡

有うまさをこのうまや　杜若

郭公

須ヶ乃蜑ハ矢さきなる哉や　郭公

此詞書ハ須ヶ紀りて

えゝ所る　えハ須ヶの蜑乃

ゝ尊ゝ鳥も須ヶ蜑ゝ矢さ放

ゝ乃る　源平乃むかしも

おもゝ吟し　ゝ乃なり

郭公正月ハ梅乃花さくより
清くゆゝしき耳ぞ香ばしき
形も野乃原にて
野もゆく馬引むくさの蜀魂
子規なくうゝ春ぞ恋しき
ほとゝぎす大行原の遍月を
杜鵑声ゆゝしきかな上
一声の江水碧なるやはるさめ

郭公啼くゝ音ぞいとゝ
烏賊声乃声ぞ恋
木のくしに茶摘もゆゝ
東乃恋ぞ
あるゝ人乃一風ぞ
杜鵑鳴音や古き硯乃相
子規なくや立て人乃あやめ草
ほとゝぎす夜ゝの闇のくらさかな

更衣 旅行

ひとり臥てしらしらあけぬるこゝ

ろ未てもしらぬ葉は 一葉かな

あゝ野原哉

一葉を一つ手に

あやまりぬ

[illegible]

潛伏 乃男 [illegible] 鹿乃 [illegible]

[illegible]

行乃[illegible]や 維き時乃 繪乃

[illegible]

牡丹

[illegible]ぬ宮路や牡丹の花の蜜

[illegible]

[illegible]や[illegible]お梅の[illegible]

[illegible]の[illegible]

[illegible]の花の[illegible]

[illegible]や船頭[illegible]

おもつうな

風蕭

大山の像

風蕭る羽織を襟[illegible]

さ[illegible]や風の薫る北相拍子

小倉山

杉を洗めてや風の薫るまる

落柿舎

柚

[illegible]

[illegible]

二句の時月[illegible]

凡

我[illegible]

しハ門人[illegible]

朝露[illegible]

泥

苗しろと一度に風のさはぎ哉
まをもあさまもつゞき風の跡

風の音は雲にしづまりや蓮葉野

柳しのけふ花をちらし
祐貞幸

竹の葉しぼし比あり
雨の夢にえゆ

筧洗ひ入て

山陰やうめを尋ねん
風白田

祐貞幸生えしょやゑりん
輪又兜

せわ句ハ酒田よし乃心くまさり
つたまの峯をらく
四方すやうらん輪にもきんと
あやまわしみり

虫月画

日乃道や蒙頓くさつき画

さみたれに信あめて早川し　最上川

大井川水ありて嶋田
塚本氏乃わりとはこまりけり

さゝなみや乃月照あらしせ　大井川
菊乙丹縁もる
二農土開帳さはそこら

かりかね乃姫乃緒まつりや　光堂

梅を勝て日枚陰神主五月あれ

めりかねや垂こうぐよ専のせし

もろ坐まし客額青ありし母

めりかねよかくれぬも乃やせさ乃そし

露流てく中作る

めりかね石鳴乃浮巣かな
ゆ人なもしくん

世兵判
水鳥明ぬとふ題にて
子をおもふ鳩の浮巣の見られまて読てしきやする人あれもあれ
比歌にて勝まさ　右歌大に勤して云鳩のうきすゆかしあしく物に被る
汐を満干ある物あれむ　あしのくきをはんこの立々もくつろけて　めりりに
くひされは汐のみち干に上下するくゆふれ出て大波もあるくくも　人
とらんぬ置しされむを庄に出る人のなかりけることを　勝に成けれ
いふめしとそ是あての物なり

なすたひ

ちさハまた青葉なからになすひ汁

としハ鳥のもしれ吟けし

七日羽黒山をくたりて

鶴の里よもる重行亭

めつらしや山を出羽の初なすひ

ひるの手

ひるの温よひるねせしみの体乃山

大堀より李田の方へ海辺まてすぐにこの海は鶴おかの句也

あつし木を金猶ぬれもん

ひ海のおもかけ米つき涼しあそひ

粽

粽ゆふてまさきかつら　顔世

おもふてのたまし　一集ハ

あまをよもたまし　生東う

結てのよ　きてさきかつら　ぬ

ふるさと　今宵の

あやめ草　編　よもすがら　藤編

三川ち

奥列　河乃国ち

風流　乃ち　めや　奥　乃田

早苗とるくもとおもふ　枕

田一枚うえてまちさる　水鳥

分入　沢に　澤　藤

ち　自ち　入　集られ　ち　自ち　ハ

伊丹の句ち　沖　田に　ハ　あ　ち

枕ケ

沖鳥や海も青　鳴

[illegible]

ひやく[illegible]と[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

月[illegible]

雲[illegible]

大津　丹野亭

[illegible]と[illegible]

蓮[illegible]

丹野[illegible]

[illegible]

湖や[illegible]

大津湖水にて

水雞

四方八水雞しとゝぬ鵜かな

霞川うなさやまとを

おくりしし共よこの寝もの

水雞

人のいへとも

きやゝ泊る

蝸牛

蝸牛死ぬとあとを

蝸牛の殼

さゝやさやかなる

蝸牛の殼

稲葉山

稲葉山

橋鐘も

橋鐘もしくやゝ

鳥せゝ

夕顔

夕顔や酔て顔出す窓乃穴

夕顔にりんこ中むかしあはれなり

夕顔乃白く夜乃後架に紙燭とりて

是ハ天和乃比乃句なり

涼

川中の根木によこ涼み

飯あふく嚊のちそうや夕涼

皿鉢もほのかに闇の宵すゝミ

此句いつれの集より出せるか定本那し奥の細乃二六（書）

涼しさや海に入たる最上川

暑き日とちくろぬき捨へきなり

四条乃川原すゝミとて夕月夜乃ころより有明過る比まて川中に床をならへて夜すから酒乃ミものくひあそふ女ハおひのむすひめいかめしく男ハ羽織なかう着なして法師老人ともに交り桶やかちや

かん第子雨まへしとま招
うかれてらひ乃しる
さきこうれ都乃かな
なまぐし

川風や薄柿着たる
閑居をおもひたゝるゝ人乃
ゆふすゞみ
りとりしかし

涼しさは圖よ見ゆる
佳だ風

淵庵不玉亭

あつみ山や吹浦かけて夕すゞみ

尾花澤清風にて

すゞしさを我宿にしてねまるなり

腰長にて

腰長や鶴脛ぬれて海涼し

象潟

象潟乃海士西行法師の合歓の花

西行橋

象潟乃橋ハなかゝら堤にて
とゝ乃とこゝ延たる舟
花乃上漕とゝ
きゝ古なる桜もいまこゝ蝉
満ち乃ちゝ〳〵落て陰
波を浸る夕晴ハと涼乃遊

夕晴や橋を涼すは乃ち

十八樓乃記　後日紀行文

山をゝ見日千ゝ
皆涼

野明亭

ゝゝゝゝ
風瀑を駭別す嶮乃体
ゝゝ巣
ゝゝ八小雨乃体山を涼め

雪芝亭

亭さや京野芝乃枝
乃形

唐破風入日や
薄よ夕涼

破風口や日新のけうみ少きことさ
ばかり
氏分は白作り出さるべし

詞書

林屋入る枝れ分る野うま

[illegible]

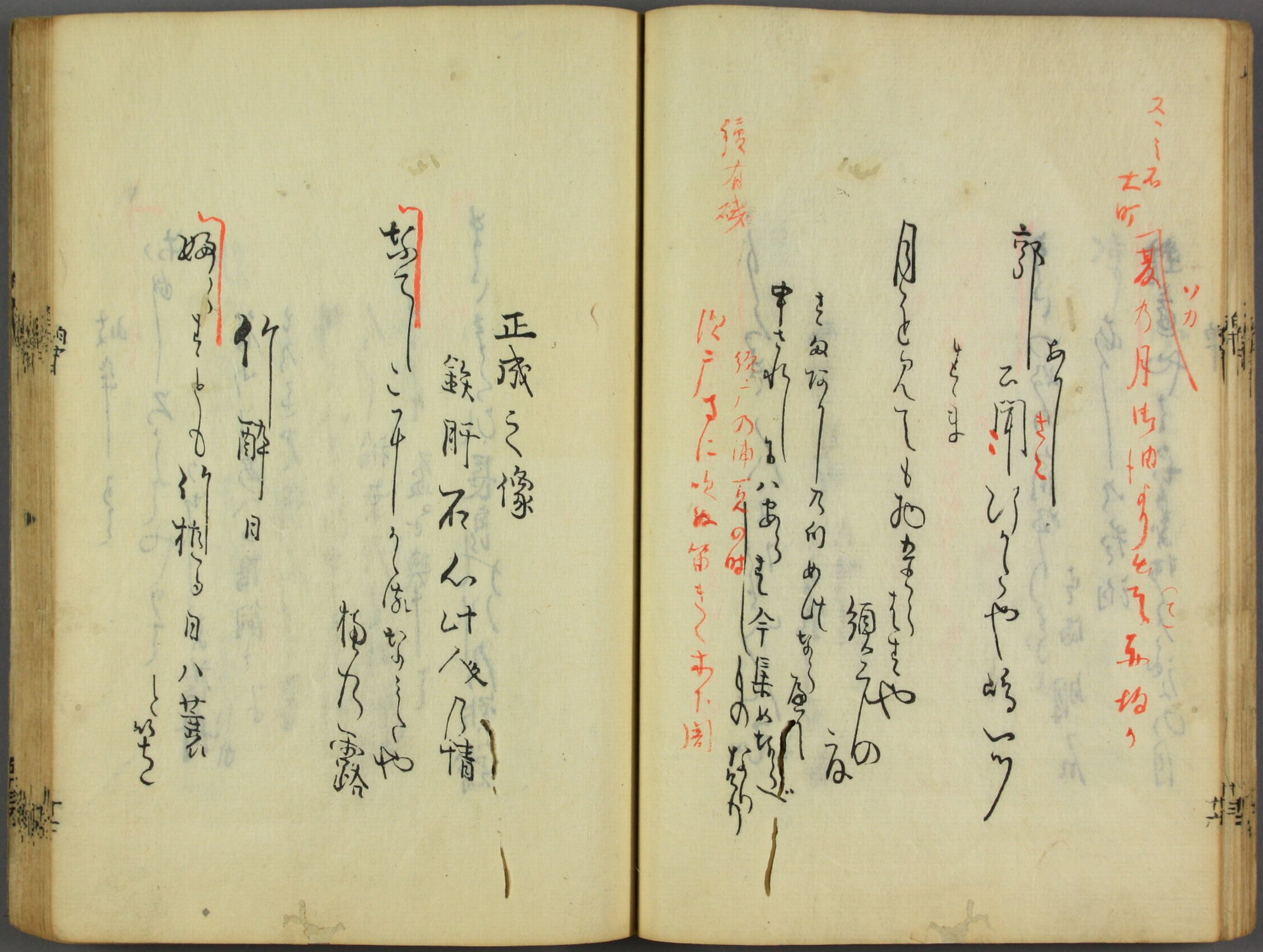
[illegible]ひとつ[illegible]

4月八遊[illegible]

氏さかひ
うこの[illegible]

うつ[illegible]角[illegible]
[illegible]
[illegible]

蜻蛉やさうなる[illegible]の月



正成くの像

鍬形石ハ仏ハ情

竹酔月

梅乃露

岐阜

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

長良川乃鵜飼

墨風雅乃たるまこと

[illegible]

[illegible]

駿河路や

[illegible]

[illegible]

[illegible]

富田士

月まても涼しき時やことさら不二

清瀧

清瀧や波にちりこむ青松葉

波に塵なきとありしをかくなるハ翁の遺言にし
清瀧乃句くりかへしやてこそんと
あはれし八野明川さきさ世

清瀧の水汲ませてところてん

ゑましく嵐のミおよせてところてん
あやまりなるへし

嵐山

六月や峯に雲置あらし山

那須乃温泉

湯をむすぶ誓もおなし石清水

[illegible]

逢龍尚舎

物乃名を先とふ荻の若葉哉

許六本曾路におもむく手

旅人の名残惜しや推の花

自筆二句推の花のいまを盛りよりの旅ねさるたかの之

うまうまの旅ねもしたり本曾の蝿

岐阜山

墨あとや古井の清水苔の間

尾張より美濃の路とこのや

世を捨て捨て捨て捨てたのもしの田植かな

盤斧

像を

賛

圍碁

あるじの人の名つま

南天の実かさしまし

竹ちと嶋やいつこ

もの思の寂上を道

眉掃

面影

紅粉

[illegible]集 行[illegible]詣肌ぬぎむ仁の[illegible]

千子この家のわかるを
[illegible]の出来のかたく
つくる
佐々

なをしの小袖も人や出用千

幻住菴　京ハ猿蓑ニアリ

八条比宮
[illegible]

[illegible]の乃[illegible]雅乃[illegible]あの
佛頂禪師の菴を[illegible]
[illegible]

[illegible]

留別

八川きまて
[illegible]て騒別乃句
其ハ[illegible]

麦乃穂と便りつつむ
[illegible]

この[illegible]
[illegible]

詞ゝ書ハ中ゝ

世乃人乃ゝ付ぬ哉や軒の雫

加別ハ校ゝ別ゝ多ゝ乃

七の書て扇子引さゝ名殘ハ

武隈乃松人を申ゝ遣揚ゝ

舉白ゝ云有餞別ゝ多乃れい

揚ゝ哉ハ二ゝ三ゝ三月越

奥別言鶴子

やつ手やゝ乃ゝ

ゝゝ上川

あつゝ日も深ゝ入ゝ哉ゝ

あちゝ

あちゝいや

別ゝ

イセ

二条軒

萩垣の八蔭の葉が

甲斐山中

山路のおとろむくるうれ

西大寺みち

青葉の目の雫拭くや

日光山

みつとせや青葉の日の光

敷紙

石の香やうるる赤く露冒

義法巳百亭

やとりもとん あうさの杖よ

なるる哥

鎌倉

鎌倉を出て あらん初鰹

鰹 亭人 いのちなるべし酔さめん

草舎の書 積て

草下さへ葉ちるや 乱

題

樫の木や花もなき世の雨
しぐるる

這もよこのいをこの下の蟬の
声

篠の露落てはこのかたの秋
此句の方はこのよ板の板よ
あきたる今はぬ

我宿は蚊の方ちいさまと馳走
うんうんと樫や面の方も蕎

小なるこの上の鶯の腸
なるの花や山鵑て明ひや
ひとしきりや行の翁塚を鳴
小雨に月少弱やこのあつさ
小雨の月や鶯は鳴くしきく
青さや茅舎餅の穂よもん

闇の夜や菓子をまとはすなる島
大津本茅舎

秋ちらよんの富や四畳半

丸百五十三句

泊船集 夏之部 四

芭蕉庵拾遺稿

維陽 風國撰次

秋

秋乃部

越後の出高田医師伺

[illegible]宿[illegible]

藥園[illegible]いつまでもそこ枕

初秋や夢ぬけぬるの蚊屋の花

文月の六日も常なるは八月也

合歓の木は葉ばかりいとゞ月の影

出雲さまゝ

世元懸や依渡るは棹なるは天の河

吊初秋七月一両日生

元禄六丙子年七月乃和風

雲ニ天ハ高ク秋ハ白浪銀

河乃出来ル時ハ

烏鵲ハ橋杭ニ成ル一葉

梅ハ実ニ成ル

屋形ニ

指ス

[illegible]

小町

[illegible]

小町

[illegible]

遍照

[illegible]

杉風

[illegible]

野[illegible]

七夕や秋をさそふ[illegible]

素堂

乃秋七月七日[illegible]

万葉七種[illegible]

[illegible]

[illegible]

七株乃萩乃もとにあり

萩 女郎花

かゝ行ものし

志ほ〳〵まなかやゝ小雲婦 萩乃

同

ぬれて行人もとゞまれ雨の夕秋

萩ゝゝや一ゝ原をやゝ山乃方

ゝゝ乃縫乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ

猶も一番ハやゝ女郎の

芦乃花

ト一のゝこもおこゝ信濃乃

笠乃記ゝハ笠りゝゝ

小萩ゝ

花の春来つゝ君の陰しさゝつま

露とこ酒さぬ萩はら
うねりもち

たもとゝ切のふん

ひよろ〳〵と猶露くさ
やまとゝ切めし

甲成丙子ねこ仔をこのこの里と
清白さるゝ小里に移りて食金ぶりを
いとふむこと

家ハこれ杖ゑ乃髮乃
竹句家書 墓こゝろ
續さるゝ乃よ
ありぬ

ゑまゝつり
かゝ乃ゑもゝ
能切このゆゝ乃ゆゝ
やいゝ乃まつり

[illegible]

[illegible]

[illegible]

枕子遠地でまゝて[illegible]

あきの[illegible]

閑閑　又ハ史邦　この[illegible]文庫[illegible]

あさゝのをや　八鎖[illegible]

嵐雪　この繪書[illegible]を賛

乃ゝ[illegible]

芭蕉　ハ下[illegible]書さく

[illegible]

芭蕉　ハ浦[illegible]

なさこの原の秋はぎ

山のおくなる鹿の

くわ葉

くれくれあり

稲妻

あま雲はいかなつまで往還り

いかなる山まや闇のうらもり

五位の山あり

寄雲下

いかなつまのうらまでいる闇の紙燭

稲妻

秋の月の詞書

さとの月

この歌作者

くれくれあり

稲つまや頼の闇の落の雫

彫骨繡

繡賛下

平家主馬の宅に彫骨などの笛数をかけたりしたりしてあるを見て無尾の壁にかけたりしたりしてあるを見て

かの獨鈷を投げて

うつくしかりける

平氏生あるときのものなり

ここの句詞畫日八繪さるる事
なんなり

秋風

あのくと日八雑爲も秋の風

秋風乃吹くる生田栗乃しば

形茶乃獨言て

原山乃ふる向秋のうせ

加賀山中桃妖る名を以て
弱ひて

桃乃木乃其葉ちるる秋の風

一筋とうの者共道を好み各乃
本乃ふしゆりとして世を
知らぬ侍りまを去年の
冬・早世さてうとて其日道
業を修さてゆ

塚も動け我なる墓ハ
あきの風

牛部屋よ蚊の声たてあきの色
花衣くく鈴
人乃結をいつるゆふれ
ヒゥ長くとゆるなれ

わいへハ屠家ハ秋の風

西東あらしきわけの風

古是八幡宮千子いせ乃紀
川茅舎し深川へ遊る
ゑゑうるかれを其おく
書付ものを

月

大曽根乃家就院ましま

あるまと家るゑ[illegible]ゆ[illegible]
秋句いろ乃遊乃集ま乃ゑ
五文字ゑ何事乃
ゑありぬ

更科嬢捨こゑ辯 今異ゑ
小文庫ゑ知乃

俳や嬢ひとゑ[illegible]月のな

いさゝひもまさきのかづらくれなゐ
の　こうあ

元禄二年つるの澤の月を
詠　氣比の明神にて
詩　上人の古
例　きく

月清し遊行もしたふ
お乃上

雲のかゝることを月をこのみ
つまるゝ人れ

雲おのく人乃を惜む月乃名
夜頭ゝと人乃見て
月乃影やまさるなるも
春月乃
蛙の八阿曼常盤と名乃る
まゝに此乃時もまる
絵巻よ人乃作りて

八月
名月八二つ亦乃瀬田乃月

名月や門に指し来る潮頭
いさよひ明月暑き涼かな
常陸まかりし船中
て
明ほのや外七夜もこゝ朧
堅田十六夜乃弁 二句含みて暮え 小文庫
鎖あけて月さし入よ浮御堂
安々と出ていさよふ月の雲

いせまてなむ竜にまとまるに天宝あ
おつとの心み日をしれ
まめやりに久しき小ハ旅の心をやすめて日向守乃妻髪を切て席をまうけられし
を人々あつまりて

棲宿ハ四角な影を窓の月
侘しさを月雁網箪之乃空を縁して
て和乃咜乃句し
一句おもしろき奇

月さびて明智が妻の咄しせん
此句乃詞書 勧進帳ニ見え
紫の庵ときけるやしもる君子の業せよ身のかしき物かな
有き坂(る) 此句の東山に住まる僧坊
尋て西行のよこ山家集に
まよひし小もといかなる
柴の戸に月や其まゝあみた坊
すまひ うやと魁つ葛之坊なく侍れハ
此句なをしくさ 小文庫に見えたり

尚白亭梅の三仙巻頭之
名月や座にうつくしき顔もなし
月を見る
此句乃説 初せ 名月や児立ならぶ堂の縁
作者くこなり

[illegible]

[illegible]

三ヶ月の地を眺めやりて島

[illegible]八島に三ヶ月の詠あり今

[illegible]

深川扇橋[illegible]

川上とこの川辺を月のな

十六夜八幡の宮[illegible]

敦賀[illegible]

名月や北国日和さだめなき

清水[illegible]を渡る時俗

あさむつと[illegible]清かの納言

乃橋[illegible]一条あき

[illegible]

あさむつや月[illegible]

玉ぐし

月ゆきて宮ぬけ出ぬ

湯殿

月よ春をしらせやもりの神

熊山

業仏社寂寞社山の鹿

悼遠流ノ天満宮師

その玉城羽黒るうへ七夕の月

源

月乃ゆくゑ

こよひ月ゆ芳野の月ぞ

米くさ

いさらひや海老ほの雪

正秀立初會興行

月代や膳よまふ雪の宿

[illegible]

大坂晴止亭

月下より遠里

月澄や物さびまする里の住

若月や池をめぐりて[illegible]

義仲寺

三井寺の門[illegible]や[illegible]月

今夜何人和草庵ト云句ヲ[illegible]

十三夜詣石山寺

橋桁の[illegible]より八月[illegible]

[illegible]

[illegible]月や[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

八月[illegible]八[illegible]乃西隅[illegible]

東[illegible]

[illegible]

[illegible]
伊吹山中いつ迄雪もとけぬ
雪ふもとふられ孤山乃
情あり

其まゝ月も無事
信照

いろ山中ゝあらし　二句

冬月ふ時ものとして事務や田舎
冬月乃雪もとけて棉白

深川の旧菴に帰て
木曾乃痩もとけたなそらぬ　秋の月

虫

夏乃雪ふる事乃
聴閑

治天り乃乳珍

蕣乃生乃言を聞ふまゝ
あれ乃集るあいかゝ林
蕣ゝ　お生書あ　と　ハ深川
乃華ちぐ

蜻蛉やうるつまのうるつまと

[illegible]

海士の屋ハ小海老ばかりいとる哉

朔蟹よりもかすかに秋の草虫ふ

[illegible]軒ばやくもきりぎす

四季の時雨乃下やきりぎす

加賀小松とゝ[illegible]神

社の宮ゝゝ[illegible]

[illegible]

錦乃きれ[illegible]

[illegible]

むさんやな甲乃下やん

きりぎす

[illegible]

田中[illegible]

[illegible]や早稲[illegible]れ　鳴[illegible]

[illegible]田[illegible]

治天の[illegible]

[illegible]雁[illegible]

[illegible]の[illegible]

[illegible]の[illegible]

[illegible]

鷹[illegible]今やくれぬと[illegible]

[illegible]

日[illegible]

[illegible]

[illegible]

義法[illegible]別墅

[illegible]

舩もなき帆もせまる風のたよりかな

此句前乃製ありとある人

わすれし草稿なれはしるそ

ツカ

ゆく秋や野分して塚に雨を聞　尚水

此寺は庭一株乃芭蕉かな

菊

菊乃露落て拾へはぬかこかな

からゝ田何かし亭にて謡人有

蝶も来て酢をすふ菊のすあへかな

十月菊

蓮池乃主翁より菊を絵あたへ給ハれハ竜山の宴をひらきたれハその湖のすゝしさ往吟のあハれをふみて猶思ひ出ぬ許かすゝやかなたへへまゐる

秋を経て蝶もなめるや菊の露

いさよひのいつれか今朝に残る菊　菊

稲こきの姥もめてたし菊の花

痩なからわりなき菊のつほみかな

元禄辛未初冬九日素堂か菊園にて

菊の香や庭に切たる履の底

重陽の宴を神無月のきのふよりけふは九日やよひの菊花むかし展重陽のためしをあさ顔をもてあそひ猶残菊をすゝめけるに成ぬ

時刻重陽といへる心を

花はおきめくこまかつい

[illegible]乃安まるや野分みれは　菊

琴箱や古物店の背の菓

蛇の目ハ玄菓の柚ちらし
ゆりぬ

草[illegible]やわれてくれ菓は酒

蛇の目ハ乙列の酒とも
菓ら[illegible]

菓葉乃雨

[illegible]ほの[illegible]の[illegible]の[illegible]

加列山中寒陽

山中や菓ハ[illegible]湯乃
[illegible]

菓乃茶碗や[illegible]乃石乃
[illegible]

[illegible]

かれこのや月と菓とる田三反

なかく乃重陽

菊乃香や奈良にハ
古き仏達

くゝのまゝ峠まゝし

菊まてゐるゝと雛法ハ
有月

菊乃香にくらかり登る
節句かな

花柳亭

菊乃香やなりハいく代の男ぶり
ゐうまて

きやしき寺れ月も
菊乃花

折ありて酢まゐる菊のさかれ引
画讃

雛法その亭

白菊乃月あたらしく見る庵も
なし

拙句ほし哥になり

くもりふさ
かゝミのよみゐつちるを
めゐゐてゐるせとおもハぬや
西行山家集下雑題しらす

日高川彦六
三十五歳

芙蓉
芙蓉介

きり雨乃気色を芙蓉の風情

素因一瓶見

（徐子）
徐氏ノ家臣

枝ゆれ乃月よりしろき芙蓉かな

市曲路にて

稚や命もうるはしきうつ

ほうつまど

畠打も實も葉もうるはしき

畫賛

雞頭や雁乃来る時尚あの

西花集

冬瓜や老女に色あるといふ

冬瓜や書の山に埋る顔の形

はつ句に行脚に居むへる時の作之是あハ老女に色あるといふ

深川遊

青くさもある屋敷を

かち匂ふて哥仏あり深川集

菴

茶の花や雑茨うる

伊賀山中　二句

世中従之山路を新墓ゆ　なのそも山路ゆ

雲ひくやしぬ　木の葉の付

いがわらうけやかふ　程ハ石の形

ひいとなく原　木の葉の盛

野分

猪もとも　風野分

秋乃くれ

枯枝に烏乃とまりけり　秋乃暮

こそ　むそ　秋のくれ

妙句ハ雲竹　うしろむき乃

像に賛　乃　くれ

雲ハ　老ぬ

人声や　秋道の奥　秋のくれ

妙道や[illegible]秋のくれ

大切清水茶庵　四方山たちのつゆし

雲風の軒もとめて秋くれぬ

早稲の香や[illegible]

同行曾良に別るる事

きりぎりす書付消ん笠の内

一家に遊女も寝たり萩と月

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ある州養竜山

秋[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

さや須磨の浦の秋

守栄院

門下にまさる蘭の穂紫の穂

悔き屋嵐蘭

文八ゆ及日記末葉世ゆ未ゆ出ず

秋風よ杉にうかれる夢の枝

初七日詣墓

きりやその七日八墓の苔

三月三日ちるとうたれし

野〻宮

野〻宮乃苔表ゆ（トリ）蔦もちるのうらうら

鳴海郊吳亭

きゝ家やゆ復こゝろ八ぬ背戸の秋

書賛

雨もしの茅難るれ吉の露

住吉

[illegible]

東庸亭

面白き秋の新霧や亭主

屋陽行事

[illegible]

霧稗[illegible]

[illegible]

[illegible]稼ぎ[illegible]

大坂[illegible]

[illegible]

中[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

女木澤桐奚興行

秋もはやはらつく雨や来て
月の形

閑乃住妻子何ぞ大垣乃
旅房を訪れ侍り其但乃
すゝろさむきとひゐん竜へ
宗祇乃もとしよきほひし

箕乃実ハ俳諧なせん
芭七乃あと

先羽の子ごおきおく時みちのくのさかひを過て
そのかミハ谷地ありけるし小夜砧

猿引ハ猿乃小袖をきぬたかな
すき如

入麺乃下焚たつる夜寒哉

ゆらり成
なるつ草とそあいろ秋いつろくの花まそ折さくる

題しらず

うそ寒や秋ハいつかの瓢哉

むくれつ追果ハ木曽乃秋

初茸やまゝは数屋敷秋の露

むし　きけちらぬ屋さく　まゝのうの

稲まゝ　ゐん茶乃末富や迷ふ

秋乃雨　ゐ末る爾　まゝ　ゐ

栗乃ね大根乃ゑさゝ

かゝ田ゝ　五月雨

祖之、教孫の栗や柿寄村

柘乃實　ゐる　むゝ　ゐ　胡言や　移あゝ

叶秋ハなんてゝ　ゐ　ゐ　ゐ

山ハゝ風　蜜林乃色乃　ゐ　ゐ

かゝ三つ

暮秋乃　ゐ

桐葉ゝ　秋乃終りや　蔦乃霜

秋の秋乃宿ゑ毎乃ゝ月や青窓
桂

行秋やもゝ山賀ケ毎栗乃いら

秋もゝやゝ〳〵毎乃月の形

秋や身ゝ引まゝよ三本
蒲團

芝柏亭

秋深ゝ隣ハ何をする人ぞ

懷古杜

鬚風を吹ゝ暮秋鬚ゝハ
誰ゝの子牡し

杜甫ハ延宝ゝ秋乃あいゝゝ乃
流行ゝ乃ゝ毎

元百七十八句